Nagano Prefectural Museum of History

長野県立歴史館たより

2026年　春号 vol.126

令和８年所蔵品展

長野県民の戦後再出発

令和８年を迎えて

長野県立歴史館特別館長　笹　本　正　治

長く厳しかった信州の冬が終わり、再び心沸き立つ春が巡ってきました。長野県立歴史館も開館32年目のあゆみを力強く進めています。

本年は長野県が誕生して150周年という記念すべき年にあたります。1868年９月17日（明治元年８月２日）に府藩県三治制の導入によって、信濃国の旗本・幕府領は伊那県になりました。1870年10月11日（明治３年９月17日）、伊那県の東信・北信部分が中野県として分立しました。1871年８月８日（明治４年６月22日）には中野県に善光寺領が編入され、県庁が中野から長野に移転して、長野県が成立しました。

同年８月29日（明治４年７月14日）、廃藩置県により信濃国内の12藩は県となり、信濃は14県となりました。同年12月31日（明治４年11月20日）第１次府県統合により、長野県と筑摩県ができました。1876年（明治９年）８月21日、筑摩県は分割されて旧高山県が岐阜県に、信濃国部分が長野県にそれぞれ編入され、現在の長野県が誕生したのです。

長野県にとって記念すべき本年は、同時に長野県史の現代編の編さんが始まる年です。県民が歴史認識を新たにする契機にしたいと思います。

そこで、秋季企画展では県成立150年・県史編さん開始記念として、10月３日から11月８日まで、「長野県150年のあゆみ～県民の“お宝”公文書の世界～」を開催いたします。

長野県立歴史館は、歴史博物館の役割だけでなく、長野県の歴史公文書等を収集・整理・保存、活用する公文書館機能を合わせ持っています。長野県が作成した現用文書は保存期間が満了して、特定歴史公文書（歴史を後代に伝えるために重要な意味を持つ資料）と判断されると、本館が保管しています。収蔵された公文書は県民共有の財産として保管、公開することで、次世代へ引き継がれ、県民の宝となります。

写真　明治後期の県庁　当館蔵

注目すべきは2008年（平成20年）１月10日に歴史資料として長野県宝に指定された「長野県行政文書」です。これは旧藩引継文書を含む1946年（昭和21年）までの10,783点に及ぶ長野県の公文書です。江戸末期から明治末期までの文書4,897点、大正期3,278点、昭和期2,039点、計10,214点の文書（これらは『長野県行政文書目録』行政簿冊１・２として本館から目録が刊行されています）と、明治初期からの「達」「布告」など（明治30年から「県報」と称される）の簿冊569点で構成されています。

こうした長野県立歴史館が所蔵・保管している行政文書からは、長野県が誕生してから現在に至るまでのあゆみが具体的に浮かび上がります。みんなで本県150年の歴史を確認するとともに、将来について考えていきましょう。

この他、夏季企画展では７月11日から８月23日まで、「戸隠の至宝～守り継がれた信仰と由緒～」を開催します。戸隠は、伝承によれば849年（嘉祥２年）に学門行者によって開山されたといい、平安期には戸隠山顕光寺により天台系の修験道場として発展しました。長い歴史を有し、広く全国に知られる戸隠の信仰について、人々の生活に根ざした展示をしたいと思います。昨年度の「安曇野～知られざる里山の祈り～」「霊場小菅～飯山の遺産と文化～」と比較しながら、信州の信仰について思いを巡らせていただければ幸いです。

冬季企画展は11月28日から令和９年２月14日まで、「古代の役人と庶民～こうだったんじゃないか　古代信濃国～」です。発掘された遺物などから、古代の信濃の実態に迫ろうと考えています。

考古史料を読む

壺Gと分類される須恵器の謎

「ツボじぃ」という音の響きが耳から離れないのは私だけでしょうか。昨年10月、歴史館所蔵の「壺G」の閲覧申請がありました。最近、盛り上がりをみせる壺Ｇ研究に携わる３氏です。壺G13点（松本市下神遺跡11点、上田市国分寺周辺遺跡群と千曲市峯遥坂遺跡各１点）を中心に熱心に観察されていました。

壺Ｇとは、頸が長い高さ20㎝位のほっそりとした長頸瓶のことで、奈良文化財研究所が、須恵器の壺の形状を「A類」からアルファベット順に分類し、「Ｇ類」に定められた須恵器であることから、「壺Ｇ」とよばれています。壺Ｇの考古学的特徴を、奈良文化財研究所の小田祐樹氏は端的にまとめています（小田「須恵器壺Ｇ「堅魚煎汁」容器説の再提唱」2025より）。

奈良時代後半から平安時代前期の遺跡・遺構より出土すること。画一的な製作工程により細長い形態を作り出すこと。容量は平城京で300ml前後と400ml～600mlが多く、長岡京・平安京では200ml未満が多いこと。駿河国･伊豆国（静岡県）の須恵器窯で生産されたこと。生産地から離れた都の他、関東をはじめ広範囲に分布することなどです。

特徴的なフォルムの壺Gは、汎用の容器とは考えづらく、かなり限定的、言い換えれば特別な用途・目的をもっていたと考えられます。このことから、その用途に関して様々な議論がされてきました。

壺Ｇが静岡県の助宗窯跡群や花坂島橋古窯跡群で限定的に生産されていたことから、駿河・伊豆の両国から都に献上していた高級調味料の「堅魚煎汁」の運搬容器ではないかとする説、当時の主要街道沿いに分布が多くみられることから蝦夷征討に参加した兵士の水筒ではないかとする説、その形態が仏具としての「花瓶」に似ていることから仏器のひとつではないかする説などです。

昨年７月に開催された第66回考古学研究会東京例会では、壺Ｇの出土分布が官衙遺跡の周辺に多いという特徴が指摘されました。

さて、当館所蔵の壺Ｇもその制作年代に着目すると、上田市国分寺周辺遺跡群例のプレ壺Ｇ（写真左）が８世紀代、松本市下神遺跡例（写真右）が９世紀代という年代観になります。もしこれを信濃国府の存在と照らし合わせると、上田から松本（筑摩）へ国府が移ったことを示す例になるかもしれません。

壺Ｇという須恵器の一つの器種ですが、それを突き詰めていくと古代の信濃の歴史の一端を復元できることになるかもしれません。「ツボじぃ」の今後のさらなる研究の進展に期待しましょう。

（大竹憲昭）

写真　須恵器　プレ壺G（左）と壺G（右）
左：上田市国分寺周辺遺跡群（高さ約21㎝）　右：松本市下神遺跡　当館蔵

令和８年長野県立歴史館所蔵品展

2026.3.14(土)～6.14(日)

長野県民の戦後再出発

はじめに

2025年（令和7年）は、終戦から80年の節目の年でしたが、1945年（昭和20年）8月15日以降も人々は生活を営み、懸命に新しい時代と向き合いました。本企画展では、当館所蔵の初公開史資料を中心に、戦中から戦後を逞しく生きた長野県民の姿をご覧いただきたいと思います。

移民と長野県

明治から戦前にかけて、日本から多くの移民が海を渡りました。長野県でも1922年（大正11年）に信濃海外協会が発足し、朝鮮や東アジア、北南米などへの移民を支えました。

北南米での排日運動の高まりを受け、中国大陸の満洲を中心に開拓移民が急増します。戦前の開拓地での暮らしを伺える写真や資料と共に、敗戦後の過酷な逃避行を綴る『終戦の記』を展示します。

『終戦の記』当館蔵

戦後、北米・南米への海外移民は再開され、再び多くの長野県民が海を渡ります。多くの困難の中で進めた開拓の様子が、日本宛ての郵便や、開拓10周年を期に制作された書籍から推しはかることができます。

戦後の占領体制

戦後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）の占領統治が始まります。大きな混乱の中、1945年９月に、武装解除の一環として、軍刀だけでなく民間人の所有するすべての刀剣類を提出するよう命令が下りました。その後、接収された刀剣類の一部は、東京都北区赤羽（あかばね）にあったアメリカ軍の兵器補給廠（しょう）に収納されたため、「赤羽刀（あかばねとう）」と総称されました。

戦後50年にあたる1995年（平成７年）に成立した「接収刀剣類の処理に関する法律」により、接収された刀剣類は国から各公立の博物館に譲与されました。当館には13口（ふり）が無償譲与され、研磨などの修繕がおこなわれました。今回、戦後の占領政策を象徴する貴重な資料として展示します。

赤羽刀「刀　銘信州諏訪住藤原信舎」当館蔵

戦後社会と青年団

江戸時代において、各村にあった若者たちの集まりは、明治以降、政府の後押しを受け、県や全国組織として成長していきます。大正時代に結成された長野県連合青年団ですが、1931年（昭和６年）の満洲事変以降、一度その活動の幕を閉じます。

戦後、1946年（昭和21年）２月22日に長野県連合青年団は再結成されます。農村の立て直しや農村社会の自治と民主化を目指した学習活動など、さまざまな運動を精力的に進めていきます。全国で最初に再結成された長野県の青年団は、戦後長野県復興の担い手となっていきます。

団旗　長野県連合青年団関係資料　当館蔵

戦後社会と女性

戦後GHQの主導により、民主化が推し進められます。終戦の翌年には、男女普通選挙が実施さ

れ、さらに新憲法が公布されました。

婦人運動家である市川房江と共に活動し、戦前から戦中、戦後を通して女性の権利獲得に生涯を捧げたのが、坂城町出身の児玉勝子です。勝子は66年にわたって日記を綴り、その時々の思いを書き残しています。今回の展示では、勝子の運動と関係する、重要な日の前後の日記を紐解きます。一つめは、1946年４月10日、女性が初めて参政権を行使した、戦後初めての衆議院議員選挙の出来事と結果についての所感です。「歴史的な総選挙」と位置付けながらも、「これからこそが大切でしかも困難な民主啓蒙運動の時代が来る」と冷静に捉えているところに、勝子らしさが垣間見えます。

『児玉勝子日記』　当館蔵

二つめは、1946年６月23日におこなわれた、新日本婦人同盟第二年次総会での、新憲法草案に対しての声明文を写し書きしたものです。当時坂城町に疎開していた勝子ですが、その後長野県から再び上京し、活動を再開していきます。

また、美空ひばり「リンゴ追分」、笠木シヅ子「東京ブギウギ」など、女性歌手の歌う流行歌も、戦後復興を支える重要な力となりました。

浅間山米軍演習地化反対運動

戦後の新しい対立構造である冷戦の激化の中、朝鮮戦争が勃発します。その中で日本国内では、1950年（昭和25年）８月に警察予備隊（現在の自衛隊）が創設され、２年後に「保安隊」と改編されました。日本の再軍備に反対する声が国内で高まる中、長野県でも再軍備について賛否両論がおきました。長野県連合青年団も、再軍備反対など平和運動に積極的に関わっていくことになります。

1953年（昭和28年）４月に、突如米軍から山岳戦術訓練のため、浅間山麓を演習地として使用したいとの通告が軽井沢町に届けられました。軽井沢町の青年たちを中心に、多くの地元の人々、さらに県内外の様々な団体が参加し、反対表明・署名運動がおこなわれました。その結果、演習地化計画は撤回されることになります。

浅間山米軍演習地化反対署名
長野県連合青年団関係資料　当館蔵

「戦後」とは

戦後の長野県民の姿からは、底なしの逞しさを感じます。ゼロ戦のスピナー（プロペラ先端の覆い）は、戦後取っ手をつけてバケツに転用されました。生きるために戦い続ける姿がそこにあります。

ゼロ戦スピナー転用バケツ　当館蔵

「戦後80年」という言葉が2025年の流行語のひとつとなりました。毎年８月15日は「終戦の日」であり、追悼と平和への希求を改めて思い起こす日とされています。1945年の８月15日以降も、人々の生活は依然として戦争の影響を受け続けましたが、こうした状況の中から、自由で民主的な新しい社会への扉が開かれていきました。新しい時代と向き合いながら「再出発」へと力強く歩みをすすめる長野県民の姿から、これからの平和と未来を考えていただければ幸いです。

（鈴木幸香）

研究の窓

県宝「長野県行政文書」にみる 近代長野県における稟議書の成立

日本特有とされる組織の意思決定方法が稟議制です。これは、下部の担当者が原案について稟議書と呼ばれる文書を作成し、関係部署に回して承認を得ることで合議を行い、最終的に組織の長が決裁を下すボトムアップ式の方法です。稟議書には承認者・決裁者の印が押されることで、意思決定の過程が記録として残ります。官公庁や会社などの組織にお勤めで、日頃より馴染み深い方も多いのではないでしょうか。

官公庁における稟議制の始まりは明治時代に遡ります。明治政府が成立すると、中央の政治機関である太政官において稟議制が採用され、それを受けて、地方の各県においても稟議制の導入とともに稟議書の書式が整備されていきました。明治初期から1946年（昭和21年）までの１万点以上の公文書群である県宝「長野県行政文書」（当館蔵）には、近代の長野県が行政を執行する過程で作成された無数の稟議書が含まれています。

1871年（明治４年）に旧長野県と筑摩県が併置されると、両県で稟議制が導入されますが、稟議書の様式が確立するのは、1876年８月に両県が合県して現在の長野県が成立してからとなります。写真１は1877年における長野県庁の稟議書の一例です。当時の県庁第一課の常務掛が管轄していた権衡器（はかり）の製造・販売について、業者からの申請を許可する原案（①）を記した稟議書です。右下に担当職員の氏名と押印があります（②）。担当者はこの稟議書を所属する第一課及び関係部署である第三課の収税掛に回し、職員から承認の印を得ています（③）。このような合議を経た上で、「権令」（現在の県知事）という文字の少し下に、権令に次ぐ地位にあたる少書記官の松野篤が押印、そして、「権令」の文字上に権令楢崎寛直による印が押され、決裁に至ったことがわかります（④）。近代公文書はこうした稟議の過程を様式として示しているのです。

写真１「（明治10年）進達留（8冊ノ内7）」

この様式は旧長野県では1875年頃から使用が確認できます。筑摩県ではやや異なる様式を使用していたので、旧長野県の稟議書の様式を継承したことがわかります。旧長野県が筑摩県を編入する形で合県し、旧長野県の組織・庁舎が長野県に引き継がれたため、稟議書の様式も継承されたのでしょう。

稟議書の様式を定めた規定については、長野県成立期のものは見つかっていませんでした。しかし、昨年度に県警より移管された特定歴史公文書に1877年５月制定の県の事務章程の写しが含まれており、合県直後に制定された稟議書の様式が判明しました（写真２）。同年７月、長野県は合県後の行政の複雑化に対応するために組織改編を行っており、それに備えて制定されたものと考えられます。県の成立期に確立した稟議書の基本的な様式は近代を通じて受け継がれ、現在に至ります。

今年は長野県が成立して150年の節目となります。秋には公文書を中心に近代長野県のあゆみを振り返る企画展を開催します。近代が現在の長野県にとってどのような意味を持つ時代であったのかを考えるとともに、公文書の歴史的価値を知っていただく機会となれば幸いです。（花岡康隆）

写真２「（明治10年5月）長野県各課事務章程例則」（一部）「警察制度沿革誌」より

INFORMATION
インフォメーション

■2026年（令和8年） 3月～6月の行事予定

3月
休館日
2・9
16・23
30

企画展・所蔵品展

令和8年長野県立歴史館所蔵品展
長野県民の戦後再出発
3月14日㈯～6月14日㈰

講座・イベント

県立歴史館講座⑦
3月14日㈯　13：30～15：00
講　師：水澤教子（当館総合情報課長）
テーマ：縄文時代の社会を考える
－ジェンダー、階層、そして戦争と平和－

古文書入門教室
3月20日㈮･祝　10：00～12：00

親子映画会
3月20日㈮･祝・3月21日㈯・3月22日㈰
※いずれの日も13:30～15:00

4月
休館日
6・13
20・27
30

5月
休館日
7・11
18・25

満洲国国民学校生徒の絵画　当館蔵

歴史館で子どもの日
5月5日㈫･祝
各種イベント

令和8年度 県立歴史館講座①
5月9日㈯　13：30～15：00

古文書講座
上級　第１回　5月23日㈯①

6月
休館日
1・8
15・22
29

終戦詔書　当館蔵

古文書講座
初級　A　第１回　6月７日㈰①
　　B　第１回　6月11日㈭①
中級　A　第１回　6月６日㈯①
　　B　第１回　6月11日㈭①

古文書出前講座①
IN 諏訪市立博物館
6月21日㈰

県立歴史館講座②
6月27日㈯　13：30～15：00

表紙写真の解説　（左上から反時計回り）

「東京ブギウギ」SPレコード
「戦争放棄」『あたらしい憲法のはなし』
「信州青年の歌」（ピース楽譜）
『児玉勝子日記』
ゼロ戦スピナー転用バケツ
米軍投下ビラ①
米軍投下ビラ②
全て当館蔵

行事アルバム

＊＊＊＊ クリスマスリースづくり ＊＊＊＊

11月29日㈯にクリスマスリースづくりが行われました。毎年楽しみにして下さっている方もおり、今年度も多くの方にご参加いただきました。飾りには縄文の人々が食べていたどんぐり、土台には縄文の人々も使っていたフジヅルと、縄文時代にちなんだ材料を使うことから「縄文風クリスマスリース」と名付けています。制作をしながら「どんぐりおいしいのかな？他に何食べてたのかな？」と縄文人の生活に思いをはせる姿も見られました。今年もボランティアの方に提供していただいたムラサキシキブの実やナンテンの実などもあり、色鮮やかな作品に仕上がりました。

＊＊＊＊＊＊ 考古学セミナー2 ＊＊＊＊＊＊

11月30日㈰に今年度２回目の考古学セミナーが行われました。「弥生時代研究の最前線！」をテーマに、第１部では明治大学名誉教授・石川日出志氏に「今、ここが面白い弥生時代の信州」と題したご講演いただき、第2部では石川氏の他に長野県埋蔵文化財センターの馬場伸一郎氏、長野県考古学会副会長で明治大学特任教授の堤隆氏をパネラーにお迎えして、パネルディスカッションが行われました。全国的にも信州の弥生時代が注目されていることにみなさん熱心に聞き入っていました。

開館カレンダー

4 April　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5 May　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6 June　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7 July　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8 August　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

9 September　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10 October　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11 November　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

12 December　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1 January　2027（令和９）年

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2 February　2027（令和９）年

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3 March　2027（令和９）年

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 休館日　※9/7～9/17は全館燻蒸のため休館　※11/17は電気設備工事のため休館　※1/25～2/1は収蔵庫点検のため休館
- 【令和８年所蔵品展】長野県民の戦後再出発
- 【夏季企画展】戸隠の至宝　～守り継がれた信仰と由緒～
- 【秋季企画展】（県成立150年・県史編さん開始記念）長野県150年のあゆみ　～県民の“お宝”公文書の世界～
- 【冬季企画展】（県成立150年記念）古代の役人と庶民　～こうだったんじゃないか 古代信濃国～

※12/1～1/24はLED工事に伴い常設展示室は閉館（予定）

イベント・講座　～Event・Lecture～

イベント

５月５日(火･祝)　**歴史館で子どもの日**　８月８日(土)　**歴史館で夏休み**
10月24日(土)　**須坂市民の日**　10月31日(土)　**長野都市ガスの日**
11月３日(火･祝)　**開館記念日**　11月21日(土)　**KOAの日**
３月20日(土)・21日(日)・22日(月･祝)　**親子映画会**

県立歴史館講座

長野県の歴史に関する最新研究をもとにした講座です。身近な地域の歴史など、幅広いテーマを取り上げて開催します。
□５月～３月にかけて全７回開催

考古学体験講座

土器や石器などを実際に手に取って観察する講座です。
□10月～12月にかけて全３回開催　□事前予約制

古文書講座（通年受講制）

古文書はまったくはじめてという方を対象にした「初級」、くずし字辞典を引き、ある程度文字を読むことができる方を対象にした「中級」、やや難しい近世文書の読解ができる方を対象にした「上級」の３講座を開設します。
□各講座とも全６回開催（フォローアップ講座を含む）
□通年受講制（５月～11月）
□申し込み受付　４月10日(金)～　※定員になりましたら締め切ります。

ティーンズ講座

中･高･大学生を対象とし古文書講座と考古学講座を開催します。
□考古学講座　７月30日(木)、31日(金)
□古文書講座　８月７日(金)、８日(土)

「県立歴史館出前講座」、「おでかけ歴史館」も行っています！
詳細は、県立歴史館ホームページをご覧いただくかお電話にてお問い合わせください。　☎026-274-3991（総合情報課）

企画展示　～Special exhibition～

令和８年所蔵品展
長野県民の戦後再出発
開催期間　３月14日(土)～６月14日(日)

夏季企画展
戸隠の至宝 ～守り継がれた信仰と由緒～
開催期間　７月11日(土)～８月23日(日)

秋季企画展
（県成立150年・県史編さん開始記念）
長野県150年のあゆみ ～県民の“お宝”公文書の世界～
開催期間　10月３日(土)～11月８日(日)

長野県行政文書　県宝（当館蔵）

冬季企画展
（県成立150年記念）
古代の役人と庶民 ～こうだったんじゃないか 古代信濃国～
開催期間　11月28日(土)～令和９年２月14日(日)

長野県立歴史館たより 春号 vol.126
2026年（令和８年）２月13日発行　編集・発行　長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6　電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail：rekishikan@pref.nagano.lg.jp　ホームページ：https://www.npmh.net/

印刷　有限会社アッツーロ